

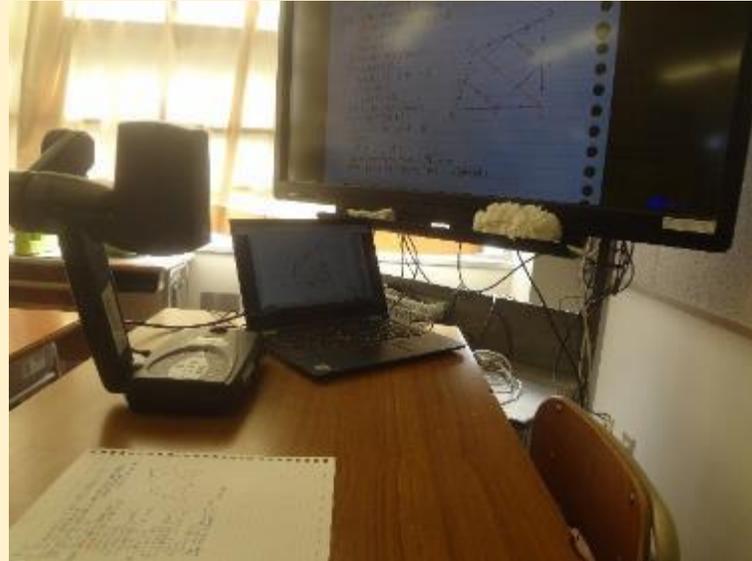
「見せる」選択肢の拡大

ICT機器が導入されて以来、最近までは「見せる」ための活用が多くありました。西宮市では「みらいスクールステーション」を使った映像配信や、教材を電子黒板に映すことで、生徒たちの興味を促し、視覚的な理解につながっています。



映像配信システム

Microsoft Teamsが導入されるまでは、配信用PCを使って集会を行っていました。かつては有線接続をする必要があり、使える場所が制限されていましたが、無線環境が整ってからは活用の幅が広がりました。



電子黒板と実物投影機

本校におけるICT活用は、電子黒板に教材を表示する機会が多く、視覚的な働きかけができています。画面に書き込むことで状況の変化を示しやすく、分かりやすい授業づくりの一端を担っています。

課題

ICT機器を使う意識は多くの教師に根付いてきたように思われます。しかし、これは一方的なものが多く、ただ大きく映すデバイスとして用いるだけでは、物足りないと感じました。双方向での活用が推奨されている今、もう一歩進んだ取り組みが必要です。また、新しい生活様式に対応した活用も求められています。



↑ 板書を映せば前時の復習はしやすいが…

双方向かつ「主体的に取り組む態度」を養うために

各教室のICT環境が更新されてからは、双方向の関わりが増えました。行事では講師がオンラインで講話し、画面越しでも円滑な交流が可能になりました。最近では、1人1台端末によって勉強の幅が広がり、主体的な取り組みが生まれています。



オンライン生徒総会

Microsoft Teamsが導入されてからは、双方向的な活用がより身近になりました。以前までの配信と違う点は、教室と体育館の両方から映像を介した交流が可能なお点です。各教室から採決に参加することができました。

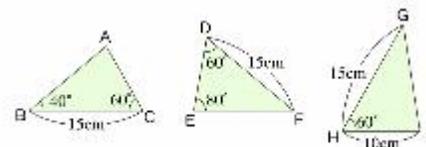


eライブラリによる自主学習

生徒個人で手軽にドリル学習ができるようになりました。勉強への敷居が下がっただけでなく、自宅と学校がつながる機能も備わっています。ネット上で学習指示をすることもでき、様々な状況に対応した活用が見込まれます。

次の□をおいて、あてはまるものを埋めなさい。

下の図で、合同な三角形を記号「 \cong 」を使って表すと、 $\triangle ABC \cong \triangle EFD$ である。また、その根拠となる合同条件は「1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しい」である。



eライブラリの学習画面 ©LINES

科目	通信コース		対面コース		対面コース 標準授業時
	出席人数	合格率	出席人数	合格率	
数学	4/40	84%	29/40	73.0%	29/40
国語	39/40	89.4%	28/40	69.1%	27/40
理科	2/40	60%	13/40	91.1%	12/40
福利	6/40	71.2%	11/40	69.3%	9/40
地理	4/40	73.8%	10/40	65.8%	6/40
歴史	4/40	70.2%	6/40	61.1%	4/40

↑ 生徒たちの学習状況も確認できます

今後の展望

生徒自身で探究し、生徒同士で教えあう環境が整ったといえます。ICTが教育に与える影響は大きい。